

農林水産大臣賞受賞

地域を想う心が生み出す行動力とチームワーク！！

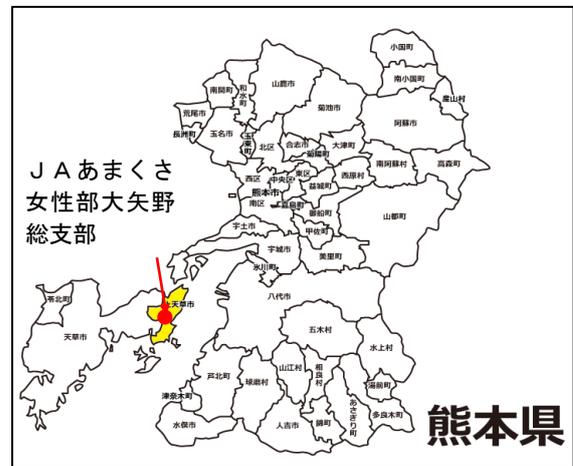
じよせいぶおおやのそうしぶ
受賞者 **J Aあまくさ女性部大矢野総支部**
(かみあまくさし
熊本県上天草市)

■ 地域の沿革と概要

上天草市は、熊本県の西部、有明海と八代海が接する天草の玄関口に位置し、ほぼ全域が雲仙天草国立公園に含まれ、日本三大松島の一つに挙げられる松島の風景等も知られている。平成 16 年に天草上島 4 町（おおやのまち 大矢野町、まつしまち 松島町、ひめどまち 姫戸町、りゅうがたけまち 龍ヶ岳町）が合併して上天草市となった。

面積は 126 km²、山林 60.8%、田畑 12.3% 等で、平坦地が少ない条件である。

第 1 図 位置図



■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

温暖な気候を生かした早期米や、全国に誇る不知火類、あまくさ晩柑等の果樹、レタス等の野菜、天草黒牛等が生産されている。特に、大矢野地区では、熊本県が日本一の生産量を誇るカスミソウやトルコギキョウ等の花き生産も盛んである。

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

大矢野地区は、山林が多い中山間地域で、高齢化の進展（65 歳以上の高齢者割合：38.7%）や後継者不足が深刻となり、産地維持や地域のつながり喪失等に対する危機感を持っていた。地域の婦人会は元々組織されていたが、活動の空白地域も存在しており、女性農業者を中心に「女性が元気に、前向きに活動することで、地域を元気に出来ないか」との声があがっていた。そのような中、非農家も含め活動を展開して行こうとの機運が高まり、J A女性部を中心として、J Aあまくさ女性部大矢野総支部（以下、

「大矢野総支部」という。)を平成5年に設立した。

大矢野総支部は、会員同志、地域住民が徹底的に「話し合う」ことにより様々な交流や資質向上等に取り組み、女性パワーを最大限発揮した実践型組織として活動を展開している。活動を通して、女性農業者と農業の応援団（女性非農家）が結束を強め、女性の視点・生活者の視点から、地産地消活動や食農教育を展開し、地域づくりなどの活動へと発展させ、大矢野地区の活性化へ向けて体制が固められていった。

(2) むらづくりの推進体制

ア 活動体制

大矢野総支部は組織内に地域の様々な活動単位（20支部、20活動グループ、3世代活動グループ）を有している。また、JAあまくさや上天草市をはじめ、地域内外の団体と連携し、販促活動や社会福祉活動等地域活性化に取り組んでいる。

第2図 むらづくり推進体制図

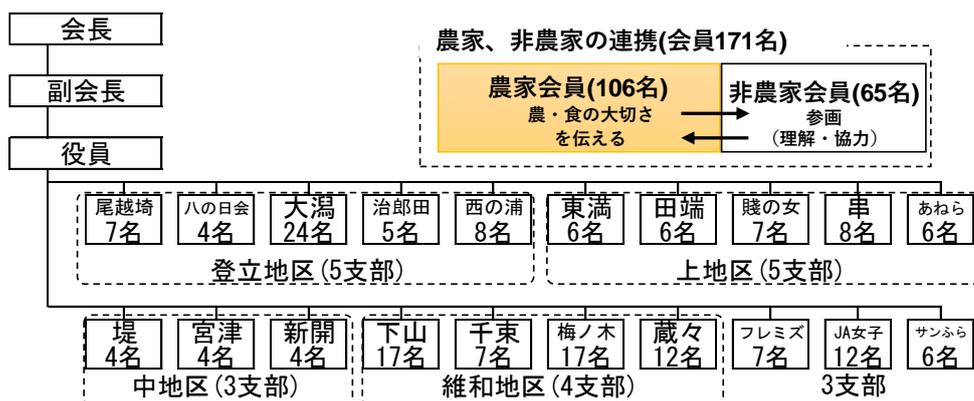


イ 運営方法と組織構成

大矢野総支部は役員8名（会長1名、副会長2名、役員5名）で運営されている。役員は各地区（登立、上、中、維和）代表で構成され、各支部からの提案を組織として実行に移す体制が整えられている。

また、各グループでも多様な活動を行っており、農家は農・食の大切さを伝え、非農家は活動に参加することにより、様々なアイデアが生まれ、更なる活動に発展させる好循環につながっている。

第3図 組織構成図



■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

高齢化や後継者不足の深刻化に対する危機感から、女性農業者を中心に地域を元気にしたいという機運が醸成され、大矢野総支部設立に至った。地域の代表として、女性のパワーを最大限に発揮し、女性の視点を活かし、生き生きと活動しており、加えて、組織内での徹底的な「話し合い」と非農家と連携した組織運営等を行うことで、活動が益々活発化する等の好循環へとつながり、地域にとって重要な役割を果たしている。

2. 農業生産面における特徴

(1) 軽トラ朝市での対面販売を通じた生産意欲向上

登立地区は元々小売店舗が少なかったうえに、平成 17 年にAコープが閉店し、高齢者が買い物に苦慮するなど地域の活気が失われつつある状況にあった。そのため、地域を元気にしたいとの思いから、平成 30 年 6 月から、毎月第 2 金曜日（午前 7 時 30 分～）に会員が生産した農産物や加工品を販売する軽トラ朝市（2 台分）を開始した。

女性農家、兼業農家が生産する安全・安心な野菜等の販売からスタートし、「お久しぶり～」から始まる会話が楽しみで来店されるお客様との「顔が見える販売」（約 50 名が来店）が好評である。ところてん、甘酒、甘酒プリン、花きアレンジメントなど新たに開発した加工品販売にもつながっている。さらに、食べ方提案等も盛り込んだお



写真1 食を届ける軽トラ朝市

客様目線でのPOP作成、調理方法や旬の味情報を紹介するなど、よりおいしい食を届けたいという農家の生産意欲の向上が図られている。リピーターも増加し、地域住民の農業への理解促進にも貢献しており、令和 4 年 6 月には 4 周年を迎える活動として定着している。

この取組により、会員自らが情報収集や自主研究等を積極的に行い、加工品開発等販売戦略・販売向上が図られ、経営の多角化・所得拡大に寄与している（加工活動に参画した会員⇒8名）。また、令和 3 年度には大矢野総支部の「野菜セット」がふるさと納税返礼品の一つにラインナップされている。

(2) コロナ禍でも地域を元気にする取組（花きの販売支援、ひまわりによる「花いっぱい作戦」）

令和 2 年度では、新型コロナウイルス感染症の拡大により、特産品である花きが需要減退で出荷できないピンチに陥っていた。大矢野総支部の活動中止も懸念されたが、感染対策を徹底したうえで活動することを決定。非農家を含めた会員が花き農家会員の指導を受け、カスミソウやキク等を

使用し、女性の感性を生かした「ワンコインブーケ（100円～500円）」の製造・販売を実施した。さらに、母の日やバレンタインデーなど各イベント時での販促活動を展開し、花きの需要喚起、所得確保に貢献している。



写真2 コロナ禍での花き販促活動

また、コロナ禍で思うような活動が出来ない中にあっても可能な活動を模索する中、令和3年6月から各支部で「ひまわり」を栽培し、笑顔を咲かそう「花いっぱい作戦」をスタート。各支部が生育状況等をSNS等で共有し、お互いを笑顔にするだけでなく、SDGsにも寄与する地域の景観形成、会員の新たなつながりづくりにも取り組んでいる。

(3) 農・食への関心を育む食育活動

大矢野町内6か所の小学校に年1回、4年生を対象とした食育活動を行っている。

「ちゃぐりん（JAこども雑誌）」を贈呈し、会員が手作り紙芝居（規格外トマトの加工品利用等）を読み語り、食や農の大切さを伝えている。また、児童が読んだ感想文を表彰する等、楽しい学びを通して、児童からは「食の大切さに気付いた」「家で料理を作った」等の声が聞かれ、料理体験に参加した非農家の児童の中から1名、農業高校に進学する等の食や農への関心の高まりにも寄与している。



写真3 小学校での食育活動
(紙芝居での食農教育)

また、「親子ちゃぐりんフェスタ」へと発展させ、町内の小学生（2年生～6年生）親子が参加する料理体験等も展開している。さらに、地域住民を対象に地産地消イベント「クッキングフェスタ」も新たに毎年1回程度開催し、講演会や試食会を通じて食と農の大切さを伝えている。

3. 生活・環境整備面における特徴

(1) 多様な活動を通して次代へつなぐ人材育成の取組

大矢野総支部では地域の様々な会員が楽しみ、やりがいを持てるよう支部グループ以外にも、世代別、目的別にグループでの活動を行っている。世代別では3つのグループ（フレッシュミズ、あねらグループ、熟年グループ）があり、異なる世代のニーズに応じた活動を展開している。20～30代の子育て世代は、親子の料理教室や野菜づくり、防災頭巾づくりなど「楽しみ」ながら活動しており、結婚により転入して間もない会員や慣れない農作業等の悩みを持つ会員にとって、地域の仲間づくりに寄与している。また、軽トラ朝市グループにフレッシュミズ会員を加える等、世代間の交

流を図り、活動意欲の向上を図っている。各グループの活動は、ウクライナの危機が平和的に解決し、平穏な日常が取り戻されるよう祈りを込め、ウクライナカラーに染めたカスミソウを地元農産物直売所に展示する等、独自の取組にも発展している。

さらに、定期的な学習活動として、料理教室や花き農家会員を講師にした寄せ植え教室、正月料理教室等も行っている。また、本部主催の勉強会等に役員が出席した際は会員に内容を共有し、会全体の資質向上にも努めている。

このように楽しく、やりがいのある活動の継続により、会員数は維持されている（H27:194名⇒H28:181名⇒H29:197名⇒H30:196名⇒R 1:190名⇒R 2:171名⇒R 3:165名）。

（2）都市と農村との交流活動（イベント出展等による伝統食の伝承）、ボランティア活動

加工品製造・販売を行う会員を中心に、漁協や花まつり実行委員会等の地元団体と連携して、イベント会場（上天草文化祭、あまくさエビリンピック、さんばーる大創業祭等）や観光客の多いリゾラテラス天草等で伝統食（ガネアゲ、このしろ寿司、だご汁等）を紹介・販売している。若年層からは「伝統食を知れて良かった」、「家でも作ってみる」等の声を得られ、取組の成果が出ている。また、若手会員が料理教室で調理方法等を学ぶ機会を作り、家庭の味として伝統食を伝える取組を行っている。



写真4 ふるさと祭りでの販売

さらに、様々なボランティア活動も行い、社会福祉活動として、老人介護施設で、手作り昼食や健康体操、ゲーム、手作りプレゼント（巾着等）を用意したミニデイサービスを毎年1回開催している。その他、ダンス発表等のイベントや詐欺撲滅運動等の啓発活動も随時開催しており、利用者に喜ばれ、継続的に実施している。

また、甚大な被害を受けた平成28年熊本地震では、農産物や加工品（味噌等）を持ち寄り、約60人が調理に集結。地震発生約10日後には被災地（益城町）に出向き、約300人分の手作りの食事を届けた。さらに、令和2年7月豪雨災害では、2日間で2トトラック分のタオルを集め、人吉、八代地域に寄付した。多くの会員が賛同し、役割分担による資材の手配、調理、配布等災害時に団結力を発揮しており、その後の活動に好影響をもたらしている。



写真5 熊本地震時の食事提供

(3) 女性の声を地域へ

女性の声を上天草市政に届けるとともに、市との連携強化を図り、より一層地域を盛り上げるため、市長と女性部員のランチミーティングを行っている。

女性部は長年の活動により、地域の課題解決に取り組んでおり、その功績から、大矢野地区の住民から女性部に対し、大きな期待が寄せられている。また、女性部主要メンバーには民生委員、地区役員、社会福祉協議会の推進員(地域見守り)、市婦人部役員、JA理事等に就任している者もあり、女性の地位向上に向け、各所で活躍している。



写真6 市長と女性部員の
ランチミーティング